

【社会福祉法人 東京光の家 総括貸借対照表】

平成27年3月31日現在

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	554,083	流動負債	95,299
現金預金	418,573	未払金	69,887
未収金	113,551	預り金	7,926
立替金	151	経理区分間借入金	10,338
経理区分間貸付金	10,338	会計単位間借入金	7,147
会計単位間貸付金	7,147		
商品・製品	2,874	固定負債	85,629
原材料	1,447	設備資金借入金	9,990
固定資産	2,911,644	退職給与引当金	75,639
基本財産	1,154,758		
土地	169,058	負債の部合計	180,928
建物	985,700	純資産の部	
その他の固定資産	1,756,885	基本金	418,832
土地	59,000	国庫補助金等特別積立金	375,706
機械及び装置	4,586	その他の積立金	1,554,265
車輦運搬具	5,807	人件費積立金	304,500
器具及び備品	17,298	建設積立金	132,000
建設仮勘定	38,649	施設整備等積立金	956,500
措置施設繰越特定預金	412,000	その他の積立金	152,500
施設整備積立預金	694,500	工賃変動積立金	2,465
人件費積立預金	154,500	設備整備等積立金	6,300
建設積立特定預金	132,000		
その他の積立特定預金	152,500	次期繰越活動収支差額	935,994
工賃変動積立預金	2,465	次期繰越活動収支差額	935,994
設備整備等積立預金	6,300	(うち当期活動収支差額)	290,071
その他の固定資産	77,277	純資産の部合計	3,284,799
資産の部合計	3,465,727	負債及び純資産の部合計	3,465,727

脚注：減価償却費の累計額 1,205,446千円

注記：固定資産の減価償却の方法…定額法

平成二六年度
社会福祉法人 東京光の家 事業報告

はじめに
～総括的報告～

今年も又、事業報告をさせて頂く時期を迎えました。日頃は私ども東京光の家が行っている諸社会福祉事業全般に対して、格別なるご高配のもとご指導ご鞭撻ご支援を賜り心から感謝申し上げます。

皆様の温かいご援助のお陰で、事業全体も滞り無く取り運ばれ、微力ながらも課されている社会的責任を果たすことが出来ました。各事業体施設に入所している利用者も、みな元気で明るく、希望を持って諸活動に励み、自立に向けて頑張っているところです。以下、平成二六年度の事業状況のご報告をさせていただきます。

【社会福祉法人 東京光の家 総括資金収支計算書】

(自)平成26年4月1日 (至)平成27年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
就労支援事業収入計	68,048
就労支援事業支出計	62,823
就労支援事業活動資金収支差額	5,225
経常活動及び福祉事業収入計	1,431,728
自立支援費等収入	700,275
利用料収入	1,633
措置費収入	195,653
私的契約利用料収入	55,899
補助事業等収入	4,011
経常経費補助金収入	310,752
寄付金収入	2,788
雑収入	34,434
借入金利息補助金収入	230
受取利息配当金収入	441
会計単位間繰入金収入	71,500
経理区分間繰入金収入	54,107
経常活動及び福祉事業支出計	1,152,825
人件費支出	793,030
事務費支出	78,308
事業費支出	155,648
借入金利息支出	230
会計単位間繰入金支出	71,500
経理区分間繰入金支出	54,107
経常活動福祉事業活動資金収支差額	278,902
施設整備等収入計(※賛助会寄付金含む)	35,147
施設整備等支出計	104,203
施設整備等資金収支差額	△ 69,056
財務収入計	0
財務支出計	264,790
財務活動資金収支差額	△ 264,790
当期資金収支差額合計	△ 49,718
当期末支払資金残高	454,461

【社会福祉法人 東京光の家 総括事業活動収支計算書】

(自)平成26年4月1日 (至)平成27年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
就労支援事業活動収入計	68,048
就労支援事業活動支出計	63,634
就労支援事業活動収支差額	4,414
事業活動及び福祉事業活動収入計	1,321,868
自立支援費等収入	700,275
利用料収入	1,633
措置費収入	195,653
私的契約利用料収入	55,899
補助事業等収入	4,011
経常経費補助金収入	310,752
寄付金収入	2,788
雑収入	28,984
国庫補助金等特別積立金取崩額(事業)	21,868
事業活動及び福祉事業活動支出計	1,067,478
人件費支出	793,030
事務費支出	64,484
事業費支出	155,648
減価償却費	45,940
引当金繰入	8,374
事業活動及び福祉事業活動収支差額	254,389
事業活動外収入計	126,279
事業活動外支出計	125,838
事業活動外収支差額	441
経常収支差額	259,245
特別収入計(※賛助会寄付金含む)	35,147
特別支出計	4,321
特別収支差額	30,826
当期活動収支差額	290,071
前期繰越活動収支差額	900,723
当期末繰越活動収支差額	1,190,794
次期繰越活動収支差額	935,994

※賛助会寄付金額 31,002千円

科目	会計	合計	法人本部	光の家 新生園	光の家 栄光園	光の家 神愛園	光の家 就労ホーム	光の家 鍼灸マッサージホーム	光の家 相談支援事業所	公益事業 特別会計
就労支援事業収入計	68,048	0	0	0	48,562	0	19,485	0	0	0
就労支援事業支出計	62,823	0	0	0	47,494	0	15,329	0	0	0
就労支援事業活動資金収支差額	5,225	0	0	0	1,068	0	4,156	0	0	0
経常活動及び福祉事業収入計	1,431,728	117,863	440,074	364,904	427,487	68,550	9,547	2,600	700	0
自立支援費等収入	700,275	0	348,823	305,010	0	43,841	0	2,600	0	0
利用料収入	1,633	0	0	0	0	0	1,633	0	0	0
措置費収入	195,653	0	0	0	195,653	0	0	0	0	0
私的契約利用料収入	55,899	0	0	0	55,899	0	0	0	0	0
補助事業等収入	4,011	36	3,975	0	0	0	0	0	0	0
経常経費補助金収入	310,752	0	84,358	52,024	163,357	4,238	6,774	0	0	0
寄付金収入	2,788	1,885	269	221	237	174	0	0	0	0
雑収入	34,434	10,231	2,539	7,548	11,986	292	1,134	0	700	0
借入金利息補助金収入	230	0	0	0	230	0	0	0	0	0
受取利息配当金収入	441	102	108	98	122	4	5	0	0	0
会計単位間繰入金収入	71,500	51,500	0	0	0	20,000	0	0	0	0
経理区分間繰入金収入	54,107	54,107	0	0	0	0	0	0	0	0
経常活動及び福祉事業支出計	1,152,825	34,505	363,701	305,476	379,591	61,214	7,922	82	331	0
人件費支出	793,030	993	257,874	191,368	286,618	50,485	5,689	0	0	0
事務費支出	78,308	13,511	13,963	17,832	25,429	5,193	1,962	82	331	0
事業費支出	155,648	0	37,755	44,775	67,312	5,535	270	0	0	0
借入金利息支出	230	0	0	0	230	0	0	0	0	0
会計単位間繰入金支出	71,500	20,000	0	51,500	0	0	0	0	0	0
経理区分間繰入金支出	54,107	0	54,107	0	0	0	0	0	0	0
経常活動福祉事業活動資金収支差額	278,902	83,358	76,372	59,427	47,895	7,335	1,625	2,517	368	0
施設整備等収入計	35,147	32,602	2,000	295	0	250	0	0	0	0
施設整備等支出計	104,203	101,992	678	811	204	300	216	0	0	0
施設整備等資金収支差額	△ 69,056	△ 69,390	1,321	△ 516	△ 204	△ 50	△ 216	0	0	0
財務収入計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
財務支出計	264,790	10,000	100,000	100,000	41,990	11,800	1,000	0	0	0
財務活動資金収支差額	△ 264,790	△ 10,000	△ 100,000	△ 100,000	△ 41,990	△ 11,800	△ 1,000	0	0	0
当期資金収支差額合計	△ 49,718	3,968	△ 22,305	△ 40,020	5,700	△ 358	409	2,517	368	0
当期末支払資金残高	454,461	80,275	119,699	129,819	93,776	19,319	5,886	2,517	3,167	0

法人事業

定款に定める施設事業体は次の六つである。

- ① 光の家新生園く障害者総合支援法による指定障害者支援施設（生活介護定員五四名・機能訓練定員六名・施設入所支援定員五五名・短期入所定員二名）
- ② 光の家栄光園く障害者総合支援法による指定障害者支援施設（生活介護定員七〇名・就労継続支援B型定員一〇名・施設入所支援定員六〇名・短期入所定員二名）
- ③ 光の家神愛園く生活保護法による救護施設（定員八〇名）
- ④ 光の家就労ホームく障害者総合支援法による障害者通所就労施設（生活介護定員一〇名・就労継続支援B型定員一〇名）
- ⑤ 光の家鍼灸マッサージホームく障害者総合支援法による盲人ホーム
- ⑥ 光の家相談支援事業所く障害者総合支援法による特定相談支援事業所

更に、右六つの施設を統一的・総合的に結ぶ部門として総務部（総務課・医務課・食事課・地域交流センター）がある。又、施設事業体に亘る横断的な活動を行う組織として一〇数余りの専門委員会（例・防災活動委員会・安全衛生委員会・苦情解決委員会等々）を設けている。

地域支援事業としては、同行援護従業者養成研修事業を実施している福祉教育研修室の他に、地域福祉相談室、盲重複障害者福祉研究室、地域貢献活動室があり、地域福祉サービスの振興・発展に貢献することを目的としている。

なお、各事業施設の活動状況等については、以下の通りである。

指定障害者支援施設

光の家新生園

光の家新生園の利用者は、視覚障害に加え、他の障害を併せ持つ盲重複障害者である。その障害の特性を考慮し、利用者やその家族のニーズに合わせた個別支援計画を策定して自立支援を行った。

一、利用者支援

平成二六年度は、四月に群馬県立盲学校より一名、東京都立文京盲学校より二名の合計三名の利用者を迎えた。又、日野市社会福祉事業団「つばさ」より高次脳機能障害の機能訓練事業を引き受け、新たに機能訓練利用者八名を迎えて、施設入所支援五七名、日中活動の利用者七八名でスタートした。今年度も多様化する利用者のニーズに応え、光の家栄光園や光の家就労ホームの併用利用も積極的に進めた。

二、地域との交流

今年度も地域の行事である「たきび祭」に参加した。又、例年同様に地域との交流行事（旭が丘ふれあい夏祭り・チャリティーバザー・愛のサウンドフェスティバル）が行われ、地域の方々との交流が出来た。

三、職員研修の充実

今年度は、相談支援事業所の相談支援専門員として兼務する職員を対象に高次脳機能障害者相談支援の研修会や東京都相談支援従事者研修を受けた。又、中堅層の職員をリーダーとして、新任層の職

員を対象に年間を通したてんかん講座を受け、専門的知識の研修を行った。

四、保護者との繋がり

保護者会は、四月、八月、十二月と年三回実施した。四月の保護者会では、「新生園の生活について」というテーマで七グループに分かれた懇談を行い、活発な意見交換を行うことが出来た。

指定障害者支援施設

光の家栄光園

光の家栄光園は障害を克服し、働くことの尊さと喜びを知ると共に、利用者の自立支援と社会活動への参加を促進することを目標に支援してきた。

一、利用者支援

平成二六年度は入所者六一名、通所者二一名でスタートした。短期入所事業は、視覚障害以外の利用も受け入れてきたが結果的には視覚に障害を持った方の利用が多かった。「安心と安全と希望」生活には喜びを」という東京光の家の基本方針を実現するため、利用

者一人ひとりの多様なニーズに適切に対応しつつ生活の質の向上を図るように努めてきた。

就労支援事業収入は約四二〇〇万円、年度当初目標にしていた四一〇〇万円を上回ることができた。特に墨字印刷は「障害者優先調達推進法」関係の受注が徐々に軌道に乗ってきているように思われる。点字出版は、日本盲人福祉委員会から「選挙公報点字版」の受注があったが定期刊行物等は減少傾向が続いている。

二、地域との交流

日野わーく・わーく（日野市授産事業地域連携システム事業）への積極的な参加や「光の家オープンハウス」、「点字教室」等、さまざまな機会を通して地域の人々と自然なつながりを築くことが出来た。

三、職員研修の充実

二六年度は内部研修の他に一四の外部研修に職員を派遣して多くの刺激を受けた。

四、保護者との繋がり

四月、八月、十二月に保護者会を開催した。また年二回の施設便りの発行と各利用者の状況をミニ

通信で保護者にお知らせした。

救護施設

光の家神愛園

光の家神愛園は視覚障害に加え、精神障害、知的障害、アルコール依存症等を併せ持つ盲重複障害者約八〇名が生活している。利用者の約三割は人生半ばにして視力を失った中途失明者である。平均年齢は六四歳、約半数が六五歳以上で、生活の様々な場面で支援を必要とする者が殆どであるが、少しでも前向きにそして生き甲斐を持つて人生を送ることが出来るよう、個別支援計画を作成し、過不足無く必要な支援が提供出来るようにした。

一、利用者支援

平成二六年度は四月に法人内の栄光園、新生園より各一名、五月、六月、十二月に外部より各一名、合計五名の利用者を受け入れた。一方、退所者は三名であった。

ここ数年、神愛園では健康維持のための運動時間を如何にして確保するかが課題となっていて、今

年度は階段昇降の実施方法を見直す等し、少しでも多くの利用者が運動に取り組めるよう工夫したこともあり、インフルエンザに罹患する者は数名であった。

二、地域との交流

今年度も多くのボランティアの皆様との協力を得ることが出来、本来に感謝である。旭が丘ふれあい夏祭りやチャリティーバザーの行事を通して地域の皆様と交流を持つことが出来た。

三、職員研修の充実

外部の研修会に積極的に職員を派遣するとともに、新人職員を中心に内部研修の充実も図れた。

四、保護者との繋がり

年に二回（八月、十二月）、保護者会を開催し、生活状況等を報告した。施設便りを二回発行し、全保護者に配布した。

障害者通所就労施設

光の家就労ホーム

光の家就労ホームは、地域からの通所利用を基本とし、知的障害を有する方々に対して、働くこと

の喜びを通し、人格形成と自立心の向上を図れるよう支援した。

一、利用者支援

平成二六年度は特別支援学校卒業生四名を新規に受け入れ、合計二二名の利用者でスタートした。日中活動の中心は仕事で、就労支援事業収入は約一九四五万円であった。「レストラン」、「紙漉き」、「軽作業（金物の組み立て、ダイレクトメール、ポステイング）」などを行った。その他、相談・健康・食事支援、行事企画、クラブ活動（運動、ダンス、レクリエーション）等も行った。

二、地域との交流

一階のレストラン事業や紙漉き作業を通して、地域の方々や企業・福祉関係者など、幅広い交流が図られ、利用者や施設とのつながりを深めることが出来た。

三、職員研修の充実

東社協「知的発達障害部会」等の外部の研修会に参加すると共に、個々の研修参加も啓蒙し、「障害特性」等に関する内部研修も行った。

四、保護者とのつながり

四月、八月、十二月に保護者

会を開催し、情報・意見交換を行った。また、施設便り（年二回）、クリスマスカード送付、日々の連絡帳で、利用状況をお知らせした。

盲人ホーム

光の家鍼灸 マッサージホーム

まもなく開設五〇周年を迎える盲人ホームは「あん摩マッサージ指圧師、鍼師、灸師の免許を有する視覚障害者であって、自営または雇用されることの困難な者に対し施設を利用させ、必要な技術の指導を行ない、その自立更生をはかる」ことを目的としている。

平成二六年度は前年度とかわらぬ五名の施術師（男性二名、女性三名）が施術業務に従事した。なお、引き続き鍼の施術師は不在となっている。

施術実績は二九五四件で、施術件数・金額共に前年度実績をやや下まわった。

今年度も指導員講師に三療の技術及び接客全般に亘る心得について指導して頂き、施術師の資質の

向上に努めた。また、法人全体の共通行事等にも積極的に参加し、地域社会との交流を図った。

特定相談支援事業

光の家 相談支援事業所

光の家相談支援事業所は、平成二六年度に新しく開始された事業である。障害福祉サービスを受けている方に対して相談支援を行い、「サービス等利用計画」の作成、また利用形態によって「継続サービス利用計画（モニタリング）」の作成を実施した。

対象となる光の家新生園、光の家栄光園、光の家就労ホームの利用者へは年度内に作成することが出来た。また地域利用者からの相談も受け、作成を行った。「サービス等利用計画」作成実績は一五六件（内、地域利用者一五五件）であった。利用者の状況によって、期間が異なる「継続サービス利用計画（モニタリング）」についても、期間を把握しながら作成し、実績としては一九件（内、地域利用者四件）であった。